

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
北海道芸術デザイン専門学校	昭和51年4月1日	館山 昭	〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目 (電話) 011-756-0777																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人美術学園	昭和62年12月4日	高橋 英雄	〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目 (電話) 011-756-0777																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化教養専門課程	産業デザイン学科 (イラストレーション専攻)	平成7年1月23日 文部科学省 告示第7号	-																						
学科の目的	産業デザイン学科(イラストレーション専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し、実務的な職業教育を施す																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	2400時間	90時間	2310時間	0時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
360人	165人	1人	4人	31人	35人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月26日 ■後期:9月27日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:7月24日～8月19日 ■冬季:12月19日～1月15日 ■前期末:9月16日～9月26日 ■学年末:3月2日～3月31日		卒業・進級条件	教育指導計画にしたがって、授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の修了・進級または卒業を認定する。 卒業必要授業数2400単位時間。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携		課外活動	■課外活動の種類 北海道私立専門学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、学園祭等の実行委員会等																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 広告・印刷・出版・web・ゲーム・アニメーション・他 ■就職指導内容 一年次より就職ガイダンスを開催。二年時には就職課、担任を含めた三者面談を複数回行う。 ■卒業者数 : 62 人 ■就職希望者数 : 48 人 ■就職者数 : 47 人 ■就職率 : 97.9 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 75.8 % ■その他 ・進学者数: 1人 (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等(平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ADEC色彩検定 3級</td> <td>③</td> <td>70人</td> <td>69人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定・ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>63人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ターナーアワード2018 学校賞 入選2名 東京装画賞 審査委員賞			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ADEC色彩検定 3級	③	70人	69人	ビジネス能力検定・ジョブパス3級	③	63人	60人	Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード	③	17人	13人	Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード	③	9人	9人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ADEC色彩検定 3級	③	70人	69人																							
ビジネス能力検定・ジョブパス3級	③	63人	60人																							
Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード	③	17人	13人																							
Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード	③	9人	9人																							
中途退学の現状	■中途退学者 10 名 ■中退率 6.1 % 平成29年4月1日時点において、在学者166名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者156名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康及び経済的理由による進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 パブリック奨学制度、スカラシップ奨学制度、交換留学奨学制度等 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有																									
当該学科のホームページURL	<a href="http://bisen-g.ac.jp/specialty/illustration/">http://bisen-g.ac.jp/specialty/illustration/</a>																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「1年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規職の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容及各種特別活動を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。 ※別紙1参照

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐野 公康	(株)デービス 代表取締役	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
西村 昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長	同上	①
谷本 智之	(株)エクステデザイン 代表取締役社長	同上	③
内藤 卓也	(株)ジュリアジャパン 取締役社長	同上	③
内村 喜憲	(株)北海道インテリアプランナー協会 会長	同上	①
山腰 信吉	札幌貴金属工芸組合 会長	同上	①
中山 眞琴	(株)nAナカヤマ・アーキテクト 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役	同上	③
館山 昭	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	
高橋 美絵	同 教務部長	同上	
飯塚 哉子	同 学務部長・環境デザイン学科長	同上	
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	
田中 政史	同 マルチメディアデザイン学科長	同上	
本間 健一	同 建築デザイン学科長	同上	
石川 恭行	同 就職課長	同上	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催頻度:年二回 開催時期:8月下旬および2月上旬

(開催日時)

第1回 平成30年8月29日 16:00～18:00(予定)

第2回 平成31年2月1日 16:00～18:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会が出された「イラストレーターに求められるスキルとして積極的な行動力、コミュニケーション力が必要」という助言を踏まえ、1年後期授業科目の「キャリアプランニング」において、アクティブラーニング形式の人間関係における積極性を養うカリキュラムを重点的に指導する方向で授業を調整した。作品のプレゼンテーションや制作への取り組みにおいて、より積極的に行動する動きがみられるように来年度に向けこの指導カリキュラムの充実を図っていく。また、「発想力や表現力の向上が必要」という助言を受けイラストレーションの表現方法の習得や発想力の向上を目的としたカリキュラムを今年度盛り込んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。</li> <li>・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。</li> <li>・学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。</li> </ul>		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
表現技法演習	イラストレーションにおける表現の基本的な制作方向やクライアントが求めるターゲット・コンセプト設定など実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。イラストレーションを学びながら表現方法の意識を深める。媒体化した時の表紙デザインや文字なども含めて製本しトータルに制作を行う。北海道文化放送の絵本朗読番組「おはようのおはなし」に向けた絵本制作を行う。	北海道イラストレーターズクラブα (クライアント企業:北海道文化放送株式会社)
応用技術演習Ⅱ	広告デザイン業界での実務の流れに沿い、デザインスキルの向上を図るとともに、目的に合わせたデザインとイラストレーションについて考えさせ、イラストレーションとデザインの関連性、広告制作の流れ等を習得させる。	株式会社大栄パッケージ
各種技術論	企業担当者からのオリエンテーションを踏まえ、企業におけるイラスト制作の目的・動向について学ぶ。実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。演習終了後には、学生の学習成果の評価を踏まえ、さらなる改善、工夫の助言を得るとともに、担当教員により5段階評価を行う。また、完成した課題は企業担当者が現場の評価を受けるとともに作品の更なる向上を図る。	株式会社エクスデザイン
応用技術演習Ⅰ	企業からのニーズを踏まえ、イラストレーションの制作方法や目的・動向について学ぶ。実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。演習終了後には、学生の学習成果の評価を踏まえる。また、「合同会社アルティスタ」へ向けたキャラクターグッズの商品企画や販売へ向けた提案を行う。	合同会社工房アルティスタ
専門技術演習Ⅱ	イラストレーション業界における媒体表現の基本的な制作方向やクライアントが求めるイラストレーションやターゲット・コンセプト設定など媒体に合わせたイラストレーションを学びながら、表現方法の意識を深める。感覚的なものを如何にイラストレーションで表現するか、媒体化した時のデザイン性も含めてトータルでものを見られるように表現する。	SHIMAUMA DESIGN
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。</li> <li>・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。</li> <li>・授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。</li> </ul>		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
「イラストレーター寺田克也の仕事術in札幌」 主催:インタークロス・クリエイティブ・センター 「HELLO DESIGN! 就職活動のためのセミナー」 主催:SHIMAUMA DESIGN 「NEW EDUCATION EXPO 2018」主催:New Education Expo 実行委員会		
②指導力の修得・向上のための研修等		
平成30年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
9月16日札幌ADCコンペティション&アワード2018 作品公開審査会 主催:札幌アートディレクターズクラブ事務局 JAGDA Poster Exhibition 2018 主催:JAGDA北海道ブロック、JAGDA北海道道央地区(予定)		
②指導力の修得・向上のための研修等		
平成30年12月予定 平成30年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確に具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する業界、企業等との信頼関係を深めることを基本の方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の教育理念・目的・人材育成は明確になっているか
(2) 学校運営	教育活動に関する情報公開がなされているか
(3) 教育活動	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか
(5) 学生支援	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか
(8) 財務	財務について会計監査が適性に行われているか
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

「地域とのつながり等で、子供たちにデザインの楽しさを知ってもらう活動に学校が一役買える」との助言を踏まえ、小学生以下を対象とした「ものづくりワークショップ」の企画・運営を実施した。また、「各専攻の卒業生の活躍について更なる情報発信を」との助言をもとに、教育効果の成果である卒業生の仕事ぶり等を発信していく方法として、SNS等の新たな活用方法を検討中である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
河村和義	(株)アトリエK一級建築士事務所	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業関係者
櫻井俊二	(有)I.B.DESIN	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
山森鉄雄	山森鉄雄司法書士事務所	平成30年11月1日～平成31年3月31日(1年)	企業有識者
細木 実	ほそき整骨院	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホムペ)・広報誌等の刊行物・その他( )公表年月日:平成30年12月10日予定

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、人材育成の特色
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果
(3) 教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援への取組状況、実習等の取組情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱
(8) 学校の財務	収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホムペ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

授業科目等の概要

(文化教養分野専門課程 産業デザイン学科 イラストレーション専攻)平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養	ビジネス能力検定の取得に向けて、職業意識の基本やキャリア設計、社会との関わり等について学習し、クリエイターとしての専門スキルを身に付けるためのモチベーションを高める。	1通	30	1	○	△		○		○		
○			英会話	交換留学生とも気軽にコミュニケーションがとれるように、また、作品制作や卒業後の仕事においても役に立つ身近で実用的な英語を身に付ける。	1前	30	1	○			○			○	
○			デザイン概論	デザインワークにおけるイラストレーションの役割を、実際に社会で使われている各種メディアから抽出・分析し、アイデアの出し方や画材の基本的な使い方、基本的なデザイン用語などについて学習する。	1前	30	1	○	△		○			○	
○			色彩学	色彩理論およびデザインワークの中で色彩が及ぼす影響や視覚的効果について、実習課題を交えながら学習し、混色・配色など着彩スキルのトレーニングも行う。色彩士検定3級受験に対応。	1前	30	1	△	○		○			○	
○			美術史	西洋美術、日本美術の流れと各時代の主要作品について学習するとともに、20世紀以降のイラストレーション史について、重要な作家や技法についての研究を行う。	1前	30	1		○		○	△		○	
○			デッサン	量感・質感・空間感・プロポーション等による自然で的確な表現を目指し、理論的裏付けを踏まえながら確かなデッサン力を養い、イラストレーターとして求められる基礎的能力を高める。	1前	30	1		○		○			○	





○		デザイン演習	ページレイアウトソフトInDesignの基本操作を学び、業種や職種に応じ企業にプレゼンテーションできるポートフォリオを制作する。ロゴデザインやポスター制作など、就職に備えてデジタルスキルの幅を広げる課題にも取り組む。	2 前	120	4		○	○	○								
○		応用技術演習 I	クライアントである企業や自治体のニーズに合わせて、広く受け入れられやすいキャラクター制作を追求し、ペンタブレットやアプリケーションソフトSAI等を用いたデジタル制作により商品展開や広告展開を図る。	2 前	120	4		○	○	○	○							
○		応用技術演習 II	デザイン業界の実務の流れに沿った課題制作を通じて、デジタル制作環境下でのワークフローを習得するとともに、イラストレーションとデザインの関係性について考察し、ビジュアル表現の幅を広げることをねらう。	2 前	120	4		○	○	○	○							
○		前期課題制作	夏期休業中に、各自の卒業制作企画案に基づいて、必要な資料収集・取材、ラフスケッチ制作・エスキース制作などを行うとともに、素材や技法について研究を深める。	2 前	30	1		○	○	○								
○		コンペ課題制作	1年次で学習したことをベースに、オリジナルの大型作品制作に取り組み、テーマ・コンセプトの立案から、スケジュール管理および実制作まで、一連のワークフローについて学習する。	2 前	30	1		○	○	○								
○		卒業制作	イラストレーション専攻として学んだ集大成を卒業制作とする。業界のニーズに応えるテーマ、コンセプトを設定し、画材・素材・描法・作品サイズ・点数を考え定められた期日までに集中的に制作を行う。学内審査及び外部審査員による賞選考会を実施して、その成果を問う。	2 後	450	15		○	○	○	○	○						
合計			27科目	2400単位時間(				80単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。